



児童虐待をテーマに講演した溝口さん

虐待予防や 通告考える

県小児保健会
前橋で研究会

県小児保健会（荒川浩一会長）の総会と研究集会在が5日、前橋市の群馬会館で開かれ、小児保健の分野に携わる医師や研究者が、小

児保健研究の成果を発表した。「児童虐待」をテーマにしたシンポジウムも行われ、関係者約80人が虐待予防や通告義務について考えた。

シンポジウムでは、済生会前橋病院小児科部長の溝口史剛さんのほか、前橋市子ども課、

県西部児童相談所の職員らが虐待予防の取り組みを紹介した。

溝口さんは県内の児童相談所と市町村の虐待通告相談件数を示し、「県内の虐待通告は全国平均より少ない。われわれには虐待の通告義務があり、さらには発見の義務がある」と強調。その上で、「虐待防止への意識を高め、医療、福祉、保健の各機関が連携することが重要」と指摘した。

研究集会は会員の交流と知識向上を目的に毎年開いている。